青森県「五所河原」の読図

石川, 雄造

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

27

(終了ページ / End Page)

28

(発行年 / Year)

1950-07-01

地割は整然として、一户の空地は大畝二の歩と定められている。全村漁業に従事し、僅かの耕作は女子のみの仕事である。式根島と共に未だに石油ランプの生活で、本村の如く電燈やラジオの恩恵は未だ受けていない。

参考文献 ▲ アナ・コミュニティ・ムーン・レポート

社会経済史料雑纂ヲニ輯

- ▲ 新島大観 (昭和七年、前田長八)
- ▲ 新島本村々勢概要 (昭和二十一年、本村俊揚)
- ▲ 新島地質調査報告文 (農報三九号 福地 祐世)
- ▲ 神津島新島調査報告文 (農報八九号 辻村 太郎)

青森縣「五所河原」の謠図

石川 雄道

本図葉は、津軽平野の中央部に位置し、最高點が北東隅の六の七米で朝日部落と長根街道との間のすぐ近くであり、出瀬村の花田附近から豊田への地帯が五米の最低を示している。そして北東部と西南部に高的が、あつて西南部は岩木山の末端面であり、全体として南から北へゆるやかに傾斜して居り中央部には岩木川が乱流の跡をのこしている。

まづ最初図を見て氣がつく事は集落である。即ち中央部に岩木川の近邊の跡があつて自然堤防上に道路と用水とが通じ、それによつて集落は用水を引水して堤防上に発達している。

つぎに岩木川の西側と東側の集落はどちらか。

それには派、苞、新田手(以上地名は当地方の新田集落の発祥を示す特異なる地名である) 新田若の地名が割合に多い事からしてこの邊一帯が開拓による集落であることを意味づけて居り、西側の一部に街村らしい形態の集落は武蔵野台地の開墾と似通つたものではないだろうか。それはこの邊が濶地であつた事や十三湯の開拓事業の結果、東西、南北に広く放水路が自由に作られてゐる。このことからして集落は自然と用水路との密接な相互關係によつて街村の型をとつて発達し、木造町蓮川部落、上相野部落等が之であつて、總じて当地域が地名からしても平野全体の集落は近世の開拓によつたものであることを示す事がかりとなる。(桑野木田部落が一六五六年に開墾されたことされている)

次に溜池であるが、水田耕作上に占める水利問題は青森色々の問題を扱つたことはさう甚もなく、溜池は重要は水の供給源として見のがすべ

とは出来ない。当地域の溜池については、水田耕作との関係について考えなければならぬ。

津野平野の溜池は大体岩木山と東部浪岡川を結んだ線以北に分布しており、五百の五折川原によると西部の昇風山砂丘帯の東西方向の低地、大籠、赤鼻、妙堂崎を結んだ山麓と北東部の間線部にのみ分布し、平野中央部に溜池が全く分布して居らぬ事には注意を要する。この平野中央部に溜池が分布しないのは水が大部分岩木川の本支流によって供給されているからではないか。その爲に多数の灌漑網が発達して溜池がなくとも或る程度灌漑水は解決されているので溜池は分布しないであろう。

間線部の溜池については廻埴の大溜池、昇風山附近の溜池があつて、全部灌漑水として水田に給水しているが、北東部の溜池は扇状地の上にはあり、一五米以下の所には二、三の溜池があるのみで多くは二〇米以上の所に多く分布して居る。その名前をあげると南から境溜池、碓溜池、大溜池等がある。その中でも大溜池からの水は天神川として松野木川へ注ぎ、他の溜池からは殆ど水を供給して居らぬのが注意を引く。

しかし溜池が現存しているだけは灌漑水を供給するのに、岩木川の本支流のみによつては、全地域へ供給するに不足を注じている事、河川用水を扇前に引水することの困難によつて古くから地形を利用して溜池となし、山麓の集落が水を容易いような所に作ったのが多くなりとも理由として考えたい。

最後に栗駒園を以て考えてみるに之については、岩木川の流域と水田中の栗駒園の位置との二つに分けてみる必要があらう。

一 流域においては河床内に広くリング畑として利用され、特に滑走斜面の所に多く栽培されているのは、自然的(砂質土)条件によつて良種となっているからではないか。

一 水田中のリング畑としての土地利用は色々な面で判断が困難であるが、水田と同面ではなく恐らくリング畑が多くなりとも高くなるて居るのではないかと考えられる。それはこの幅幅からの等高線での区別は難しく、何處に水田中にあるかについては、水田にとって不可欠の水相がどうしても及ばぬ爲であつて、その爲に畑として利用しているのだからと考へられる。

特に十川と新十川との流域はどうかについては十川の流域に広く栽培され之に反し旧十川にない事も注目してよい。以上が読図の大要であるが集落、溜池、栗駒園の三つについて讀図してみた。